内外タイムス THE NAIGAI TIMES

11月5日 土曜日 4日発行
昭和30年 西暦1955年

発行所 内外タイムス社
東京都中央区銀座3の5
電話 代表 京橋(56)8646番
直通 販売(〃)0437 広告(〃)3995
編集局 港区芝金杉川口町13
電話 代表 三田(45)8136番
振替貯金口座 東京170071番

第3269号 (昭和24年6月27日 第三種郵便物認可・昭和24年5月27日 国鉄特別扱承認 第232号)
(中華郵政台字第637号執照登記為第2類新聞紙類・内政内警証報億内台警字第0136号)

4版

あすの暦
11月5日(土)
旧9月21日
月齢 20.3
日出 前 6.06
日入 後 4.43
月出 後 9.35
月入 前 11.00
満潮 前 9.30 後 7.50
干潮 前 2.05 後 2.20
(中潮)

天気予報
今晩 北の風弱く晴、一時曇。
明日 北のち南東の風晴、夕方頃から雲が多くなる。

解散要求決議案を提出

臨時国会で保守と対決

鈴木社会党委員長車中談

【静岡発】社会党の鈴木委員長、浅沼書記長、河上顧問ら首脳陣は統一後初の地方遊説のため、四日午前九時東京発特急“つばめ”で西下した。一行は五日大阪、六日名古屋を遊説するが、鈴木委員長は車中、同行の記者団と会見、当面の政局問題などについて(一)政権のタライ回しを阻止するため解散要求決議案を臨時国会に提出する。(二)日ソ交渉は早期に解決して国交の調整を図るべきである。と述べ、社会党の今後の方針を明らかにした。なお一行の顔ぶれは鈴木委員長、浅沼書記長、河上顧問、伊藤(好)政審会長、佐々木選対委員長、三宅総務局長、曽禰企画局長、松尾代議士副会長、田中(稔)遊説部長ら九名で伊藤(卯)財務委員長、安平組織局長、山本(幸)青婦局長、佐多国際局長の四氏は現地参加する。鈴木委員長の談話要旨つぎのとおり。

▽当面の政局について=保守合同は結構で民主的国会運営のために革新政党と保守政党の二大政党の対立の形を望んでいる社会党が統一した今日保守合同も早い方がよい。保守合同がいつ頃できるかは保守側の問題だが、年内にはできるだろう。しかし現在の保守合同のやり方を見ると方針や政策はそっちのけで党首すなわち政権争奪が第一のようだ。次に社会党に政権を渡さず保守が依然として政権を独占しようというのがねらいのようだ。鳩山内閣成立の際、鳩山首相は社会党の要求に対し政権のタライ回しでなく、総選挙を通じて政権の移動をやることを明らかにした。従って政権の移動は国会を解散して政権の担当者を決めるとの原則を鳩山内閣が行うことを期待する。もしその期待が裏切られるような時は臨時国会に解散要求決議案を出して対決する。

▽外交問題について=日ソ交渉は鳩山首相と重光外相の間に甚しい意見の相違があり、しかも保守合同が活発になるや最後決定を避ける醜態をみせている。首相は保守合同で日ソ交渉をギセイにしないことを国民と誓約したはずだ。また自由党は慎重に名をかり事実上の打切りを策している。社会党は当初から日ソ国交の速やかな回復を根本方針としている。交渉が遅滞する場合には暫定協定によって戦争状態の終結と外交関係の回復とを実現し、同時に戦犯および抑留者の帰国を実現するとともに大使を交換して、引続き領土問題を含む平和条約の締結、貿易、漁業、文化交流などの諸懸案の解決を図ることを妥当と考える。なお南樺太、千島を含む領土全般の問題は対米関係、国際情勢などともにらみ合せて解決すべきで、暫定協定締結の際においても、歯舞、色丹の復帰を計るべきである。以上の方針にそう限り社会党は政府の施策を支持するにやぶさかでない。

日ソ交渉の早期妥結を支持

▽党つくりについて=党の主体性を確立しつつこの一年間に党費完納党員十万獲得を目標とし、労組、農組、中小企業団体、青年婦人、共同組合など各種団体からの大量入党を促進すべく、学者、文化人、技術関係者、科学技術者、自由職業者の新入党を求める。

【写真は特急つばめで西下した(右から)浅沼書記長、伊藤(好)、鈴木委員長、佐々木、三宅の各氏=東京駅で】

関係閣僚で検討へ

地方財政赤字処理 臨時国会までに成案

政府は四日の定例閣議でとくに地方財政問題をとり上げ川島自治庁長官から約一時間にわたり詳細な説明をきき、この結果地方財政再建のためには税制機構ならびに財政(赤字処理)の両方面から検討することが必要であり、問題の性質上地方自治庁、行政管理庁のみでは処理しえないとの見地から、農林、労働、建設、厚生、文部、大蔵、自治庁長官の関係閣僚懇談会を設け、臨時国会を目標に政府としての解決策をねることになった。この関係閣僚懇談会は七日午前十時に初会合を開く予定。

公務員期末手当さらに検討

政府は四日の閣議で公務員に対する期末手当〇・二五ヵ月分の支給問題について協議したが、現業関係閣僚の支給論と一万田蔵相の財政上支出不能論が対立したままで結論を得なかった。このため今後関係閣僚がさらに検討した上、調整をはかることに決った。

東京のエトランゼ ③

中華民国

エヴァ・チャン嬢(CATスチュワーデス)

空かける三千時間

○…大空をかけること二年余、滞空時間三千時間以上というCAT航空のスチュワーデス、エヴァ・チャンさんは小柄な体を水色のユニフォームにつつんで日本の娘さんと少しも変らない。愛くるしい明朗なお嬢さんである。

○…子供の頃から空への憧れが強く、二年前台北ステーションに入ったが、来日の希望やみがたく、再三上司に頼んで東京勤務にして貰ったという。目下週三回、羽田—京城間の日韓ラインを往ったり来たりしている。

○…『日本の印象…ワタクシ考えていたよりズーッとよかった。日本の男女性とも進歩的で明るいですね』と流ちょうな日本語で絶賛しきり。日本語は五反田の日本人宅に同居しているうちに覚えたという。

○…『北海道をのぞいて日本全国を見て回りましたが、なんといっても雪が一番スキ、真白くてとてもキレイ』と南国育ちの彼女にはことさら珍らしく見えたのであろう。ただし結婚については『いろんな国の紳士方をみているせいか自分で理想が高くなってダメね』という。いうことがハキハキしているので好感がもてる。

○…『将来は平凡な生き方をしたい』というから大空をかける恋など華やかな夢をみているかと思ったら反対に小さな希望が彼女の本能的願いとなっているらしい。中国は福建省の生れ、本名江秋華、二十二才

記者団と会見の松村文相
【大阪=共同電送】

粋人酔筆

狂男・狂女

田辺禎一

先日中村芝鶴さんが芦原将軍のことを書いておられたが、私も将軍から勲章を拝受した一人である。芝鶴さんは将軍に松沢病院で拝謁しておられるが、国立の精神病院が松沢に移ったのは大正になってのことで、明治時代は巣鴨にあったものだ。従ってそのころ『巣鴨に行く』といえば気狂いになったことで、ちょうど今日の『松沢行き』と同じ意味であった。

ところがつい戦争前までは『巣鴨に行く』というのは監獄に入ることで、明治には監獄は市ケ谷にあって、監獄行きのことは『市ケ谷行き』といった。だから坪内逍遥博士が『孤城落月』を書かれる時に、狂女の見学に行かれたのは、松沢病院ではなくて巣鴨病院であった。

私がまだ学生だった頃、一高時代の先輩のN医学士(その後博士になって台湾の病院長をされ、終戦後は京都に住んでおられた)が巣鴨病院の医者をしておられ、音楽が非常に好きだったところから、狂人に音楽を聞かせると効果があると主張された。そして私に、ぜひ狂人たちにヴァイオリンを聞かせてやってくれと頼まれたので、私は早速ヴァイオリンをかかえて出かけた。

広い庭で狂人全部(厳重監禁者を除いて)を集めて、数曲を聞かせた後に、各室を回覧させてもらったが、そのときに名物男の芦原将軍を訪れたのである。それはたしか明治三十七、八年、日露戦役のころだから、思えば芦原将軍の人気も随分長いものである。

『拝謁を仰せつける』というので、室の入口にいって最敬礼をやったところ『今日はわが臣下どものために音楽を聞かせてくれたことは大儀に存ずる。ただいま大蔵大臣に命じて勲章を授けつかわすからひかえておれ』という命令であった。私は『有難き仰せに御座ります』と再拝して引き退ったが、狂人相手でなければ、こんなバカ気た芝居を正気でやってはおられない。

その時将軍は、絵にかいた神武天皇のような服装をして、背後には数本の旗差しが立てかけてあった。とにかく愛嬌のある爺さんであった。

いろいろ面白い狂人があって、誇大妄想狂の一人の男に日記帳を見せてもらったが、その中に『三井へ百万円貸。岩崎へ一千万円貸』などと書いてあったり、出納帳に『豆腐十円半紙二十円』などと記してあった。当時は豆腐は二銭か三銭だし、半紙は五銭か十銭位の時代だから、これを見て驚いたが、もし今日ならばその狂人は何と書いたろう。恐らく『豆腐一万円』などと書いたであろう。

男の狂人はさほどでもないが、女の狂人には実に驚いた。特に性病から来た狂女は恐ろしい。狂女の室の前に来ると、いきなり全裸の女が飛び出して来て、首っ玉にかじりつく。腰巻きどころではない、バタフライもつけない全くのヌードであった。しかもその多くは花柳界の女だから、中々美人であった。それが一糸もまとわず首っ玉にかじりつくのだから、わずか二十才ぐらいの青年のこと故、うれしく思うはずだが、その女の眼つきなどを見ると、何となく妖気がただよって恐ろしく、力まかせに振り切って逃げると、たちまちに叫び声を張り上げて罵倒する。全く恐ろしかった印象が残っている。

何しろ脳梅毒の女は恥かしいという精神が失われてしまって、極端な露出症になり、平気で大切なところを見せるから、若い男は目をおおうて逃げ出してしまった。

狂女は誰を見ても『私は病気でも何でもないのに、だましてこんな病院に入れた』といって哀れっぽく訴えるが、私も初めはそれを聞いてその女に同情を感じたが、医者から、『それがすべての狂人の習性だ』と聞いて、そうかなと思った。とにかく坪内博士のような方は別として、私は、狂女を見学することだけは一度で懲りてしまった。

春夏秋冬

お米の増配を

戦争中だったか戦後だったか『トヨアシハラのミズホの国に生れ来て、米が食えぬとはウソのような話』という歌をよんだ男がいた。農林省の収穫予想七千九百万石、戦前戦後を通じての大豊作という現在からみればそれこそウソのような話である。

そこで思い出すのは、米の統制撤廃をにおわせた河野農相のことばである。保守合同という芝居がいそがしくて、いつの間にか忘れられてしまったが、実収八千万石と聞くと、何とか一年三百六十五日安んじて米の飯を食いたいと考えるのが人情だろう。

八千万石では完全に配給すればもちろん余裕はない。操作米はとっておかねばならない。それに、来年は冷害や風水害がないとは誰も保証できない。そのために備蓄米も必要である。だから統制がやめられぬとは素人でもわかるが、少くとも希望配給を三日などとケチなことをいわず、十日とか十五日とかには出来るはずである。保守合同も大変だろうが、こういう国民の希望にこたえることこそ、政治家の本務でなければなるまい。

米のねだんも下がった。東北の農村では庭先八十円、九十円というヤミ値?で配給辞退が続出しているという。しかし高い安いよりも『ヤミ』というイヤらしい事実があることの方が重大なのではないか。東京についていえば上野、赤羽へ集まったヤミ米は、すべて料亭やスシ屋へ流れているという。政府は思い出したように警察を動かして取締るが、そのお役人が料亭でこのヤミ飯をぱくついているのだから、全く当世流行の漫画である。

視野をひろげれば農業生産力は世界的にも高まっている。アメリカが余剰農産物を売りつけたがっていることはかくれもないし、中共も輸出する迄になった。こういう流れに立って政府の農業政策はこの際根本的に再検討する必要があろう。いつ迄も四等国だと自己被虐症を続けている必要はない。

首相、箱根で静養

【鎌倉発】鎌倉扇ケ谷の石橋別邸で静養中の鳩山首相は四日午前自動車で箱根富士屋ホテルに入った。

通常国会に提案

文相 教科書問題で言明

【大阪発】松村文相は関西大学創立七十周年記念式に出席のため四日朝八時五十一分大阪駅着で来阪、次のように語った。

一、教科書問題=民主党は冷静に考えて採択の範囲、その方法、業者と教委との間にスキャンダルを起さない、値段を安くする、の四つの目標を立て、この点を検討して今月中に成案し、次の通常国会に出すよう準備している。

一、教育委員会制度改革問題=文部省としてはいま白紙の状態で今後どうするかまだ決めていない。

一、党首問題=われわれは鳩山緒方の優劣論をやっているのではない。国民は半年前に多数をもって鳩山とその政策を支持した。鳩山内閣の内外政策はまだ行詰まっていない。このように国民が選んだものを変える必要はなく、その筋道を通さねばならない。

民主、公選に折れる

常任世話人会へ妥協案

民自両党は四日午後一時過ぎから院内で新党結成準備会常任世話人会を開き、党首問題を検討した。三日の四者会談では表面話合いはデッドロックに乗りあげた形をとっているものの、民主党側から自由党側に対し

一、保守合同は絶対に実現させる

一、このため民主党は総裁を話合いで決めるという態度を改め、基本的には公選に切替える。

一、公選の方法については民主党の公選方法に自由党が歩み寄る。

という総裁問題解決の提案が一つの妥協案として提出されたもようである。

河野農相言明 臨時国会前に合同できる

河野農相は四日の閣議で保守合同の見通しについて説明し『合同は臨時国会前にできると思う』と次のように述べた。

保守合同は三日夜の四者会談で出来るとの見通しがついた。臨時国会前に合同できるだろう。これからは自由党の方が党内取りまとめに努力することになり、多少の犠牲者が出ることになるかもしれない。

市況

整理人気

全般に整理人気を一段と深め、休日明けはほぼ全面的に続落商状となった。特定株は地合不冴えから買気引立たず、引続きマバラの売物に押されてほとんど二、三円安と気配い。雑株は先駆した化学、食品、商事、電機、製紙など全般にわたって小口の利食売物が目立って五円内外軟化するもの多く、ほとんど高いものなしの場面であった。この間小ぎざみ無償とりやめを伝えた日軽金がマバラの投物に九円安を下押したのが目立った。

▽安い株=吉富薬十円、日軽金、東洋工九円、八欧電、台糖七円、三井不、明糖、東洋糖、吉原産業六円、大和紡、九州電力、日立工機、大丸、大同海運五円

▽高い株=三井埠五円

東京株式仲値
□新株落△当落
(4日前場終値)

				三菱鉱	53	台糖	270
				古河鉱	81	明糖	128
				同和鉱	139	甜菜糖	125
特定銘柄		日立	80	住友炭	63	野田	206
東海上	234	東芝	64	三井山	66	森永	182
郵船	60	三洋電	300	北海炭	68	明菓	183
新三菱	74	松下電	168	日鉄鉱	403	日水産	101
日清紡	263	八欧	179	商船	46	昭和産	119
味の素	300	東洋紡	174	三井船	48	東洋醸	97
三越	287	鐘紡	133	西武	367	合同酒	157
三菱地	482	富士紡	124	藤田興	203	三楽	133
平和不	214	大日紡	85	飯野海	58	大阪糖	170
日東化	102	日東紡	62	日銀	一	三井物	157
日産化	90	片倉	33	東銀	54	第一物	147
三菱化	125	東邦レ	127	三井銀	73	白木屋	255
三井化	140	帝麻	35	富士銀	88	高島屋	108
協和醗	137	中繊	45	日証金	71	大丸	273
東合成	151	帝人	163	安田火	96	日活	73
三共製	170	東洋レ	215	大正海	85	松竹	216
信越化	94	三菱レ	135	住友海	77	東宝	一
東高圧	168	倉レ	135	千代田	75	大映	177
昭電工	124	旭化成	398	東電	625	王子紙	250
日本曹	105	山陽パ	147	関西電	658	十条紙	287
旭電化	90	日本パ	120	鋼管	85	本州紙	95
三菱造	95	国策パ	143	日製鋼	71	三菱紙	90
三井造	130	東北パ	127	八幡	64	北越紙	67
三菱重	63	日毛	242	富士鉄	59	日セメ	168
石川重	91	帝石	84	神戸鋼	54	磐城セ	285
精工	138	日石	117	日特鋼	110	小野田	93
東洋ベ	125	昭和石	150	日軽金	163	富士写	163
日立造	57	東燃	143	日金工	73	小西六	109
浦賀	62	三菱石	152	日本粉	132	横浜ゴ	152
日本光	145	大協石	153	日清粉	127	旭硝子	180
キヤノ	165	三井金	126	日本ビ	180	三井不	768
理研光	58	三菱金	119	朝日ビ	195	三井倉	83
三菱電	87	日鉱	113	キリン	213	渋沢倉	79
		住友金	119	宝酒造	130	東洋埠	202

米、近く緩和

対共産圏貿易制限

【ワシントン三日発AP=共同】米商務省は三日、ソ連はじめ共産諸国との間の“平和物資”民間商業貿易にかんする制限を年末までに緩和すると発表した。

西ベルリンに日本総領事館開設

【ベルリン三日発ロイター=共同】西ベルリンの日本総領事館が三日甲斐文比古総領事の手によって開かれた。

ないがい川柳 吉田机司選

関係のないことばかり迷子言い　北 松本いはを
行く＼／を話せば女横を向き　墨田 猿谷三十越
現像を頼むに困るものを撮り　文京 木村いつ秋
ゼネストが迫り国鉄値上げする　中央 枯すゝき
ハネムーン二人仲よく窓をしめ　横浜 渡辺夢生
総立ちの中でヒーロー放り上げ　千代田 南渡波
【賞】デパートの包で村の駅が混み　中野 羽戸山市郎

内外抄

政権の欲の突っ張り合いで世話人会、四者会談と持ち回る総裁問題、あげくはだまし合いとなる。

◇

緒方、三木の顔がすれ合うだけで一向会わぬそうな。縁のない仲とあきらめましょう。

◇

砂川町民、また繰り出して来た応援団に力を得て頑張る。話合いつかねばメーファーツじゃないか

◇

岡っ引きが待ち構えていようと『政治的』のお許し得た鶴右衛門君、六方を踏んでかけ込み給え。

◇

小児マヒの病源体を取り出す法が米で発見されたとの朗報に、世界の患者は飛び立つ思い。

青春無宿 (178)

大林清
下高原健二 画

転落の道(五)

大淵に送られたタクシーを、光代と木島は有楽町の駅近くで下りた。

『折角ここまで来たんだから、わたしはちょっと用を足して行こう。光代さんはまっすぐ帰るだろう』

木島がそう云ったのは、光代にとって幸いだった。

光代は木島と別れると、有楽町駅へはいるふりをして、逆に寿司屋横丁の方へ抜けた。さっき大淵の事務所で聞いた話を、何とかして次郎に伝えたいと思ったからだ。

木島にみつかるのを避けるために、裏通りづたいに東銀座へ出て逆の方角から銀六アパートのある通りへはいって行った。

だが、万宗の角をまがろうとした時、光代はいそいでいた足をハッととめた。そこから見える銀六アパートの玄関前に、立ったりしゃがんだりしている四、五人の男が見え、その中にブルドッグの六と赤目の西の姿があったからだ。

光代はいそいで物陰へ身をよせてから、仕方なく今来た方へもどりはじめた。ふと思い出されたのは、大淵が口にした『銀座の連中』という言葉だった。ひょっとしたらそれは、六や西たち銀座義勇会の愚連隊のことかも知れない。そうとすると、彼等は次郎をつかまえようとして、銀六アパートの前に張込んでいるのだ。

光代は次郎がまだアパートへ帰っていないものと判断した。その前に次郎をみつけだして、危険が待ちうけていることを告げなければならない。

松坂屋の角まで出てから、また踵をめぐらした。銀六アパートの方へまがる筋を素通りして、三十間堀まであるいて行った。

と、そこからふたたびひきかえそうとした時、三原橋の方から近づいて来るサンドイッチマンに気づいた。いつかソロジェムに引き入れられたこの近所のレストランで、次郎のことをよく知っている男だと、ヴァルマンに説明されたサンドイッチマンだった。

サンドイッチマンの方も光代をみとめると、おやという表情になって、今までゆっくりはこんでいた足を早めて来た。

『こんにちわ』

顔を知っている相手ではあるが馴れなれしくそう声をかけられようとは、光代も思っていなかった。

『宇田さんですか』

サンドイッチマンは愛嬌よく笑いながらきいた。

『ええ』

光代がうなずいて見せると、

『宇田さんなら今、表通りの村岡宝石店で見かけましたよ。二十分ぐらい前だから多分まだいるでしょう』

『済みません』

光代はこの男に会った幸運を感謝した。礼をのべるのもそこそこに、表通りへ足を早めて、村岡宝石店の方へまがって行った。

まだ陽の高い午後の銀座通りは相変らずの人出だった。その間を縫うようにして、ここでは有名な老舗だと聞いているその宝石店の前に立つと、螢光灯の照明の明るい奥をのぞいて見た。が、そこから見える店内に次郎の姿はなかった

十代のよみもの

女子大、高校生にきく

兼好法師は徒然草で『ひとりともしびのもとにふみをひろげて、見ぬ世の人を友とするこそ、こよのう慰むるわざなれ』といったが、秋の夜長のこの読書シーズンに、十代の娘らは、どんな本を心のかてとして読むのだろう……社会診断グループは、これを知るため、女子大生、女高生ら三百名に、彼女らのよみものをたずねてみた。

求める"人生"の書 『借りて読む』が圧倒的

書店の店先は、新書ブームがわがもの顔だが、この二百冊余の新書の中で、彼女らに最も読まれているものが、『はだか随筆』(六〇)『うらなり抄』(一二)『うちの宿六』(一二)『しいのみ学園』(一〇)というぐあいである。もっとも『はだか随筆』は随筆ブームの皮切りで、他の新書より抜きでたベストセラーなのだが下半身を語る先生の失言?は、教授の肩書によるヴェールで読ませたものであろう。これに対し、作り出したベストセラー、『欲望』『裁判官』『新聞社』などは案外読まれていない。十代娘は、新書ブームの流行には無関心のようだ。

新刊では『二十四の瞳』『女中ッ子』『むらぎも』『霧の中の少女』『女は自由である』などを読む半面、歴史は常に繰返すように『友情』『真実一路』『波』とかジイドの『狭き門』『女の学校』などが相変らず読まれている。また女子大生だけをみると、『結婚について』『恋愛について』などが多く読まれ、将来の結婚を夢み恋愛をあこがれる女性の心がのぞかれるようだ。

また現代は人生論の時代であるともいわれるが、この観点から読書をみると、『私の人生観』『人生遍路』『若き日のために』『若き女性のために』などの書物が読まれ、『青春の生き方』『若き日の生き方』『新しい女性の生き方』『典子の生き方』『千恵子の生き方』等によって人生の指導標を求めており、悩み多き青春を物語っている。

写真は銀座のS書店

半数が容姿もの ばかにならぬ週刊誌

次に彼女らの読む雑誌に調査のまなこを転じてみよう。多数の娘に読まれるものは、『文芸春秋』(五〇)『婦人公論』(三四)の総合雑誌と週刊誌を全体の三分の二のものが愛読する。ついで『新女苑』(二四)『芸術新潮』(二二)であるが、半数が容姿への関心を示して『スタイル・ブック』『若い女性』『装苑』の服飾雑誌を、娯楽としては『映画ストーリー』『スターストーリー』や『音楽の友』など。女子大生は生活設計の関心を持つのか、『暮しの手帖』を五分の一の者が読み、女高生は生活環境の縮図のように『蛍雪時代』(三四)『高校時代』(一七)とか『高校コース』を、また『平凡』(三四)と『リーダース・ダイジェスト』(三〇)を読むが、『平凡』は思ったほど読まれていない。

さらに雑誌では、実に多くの週刊誌が読まれているが、これもダイジェスト文化の現われであろう。廉価ということも一つの理由だがその内容がアップ・ツウ・デートということを見逃すことはでもない。

最初と終り読むキセル読み

いまこの根拠として、彼女らが週刊誌の最も興味を引くところを問うと、トップ記事(一〇〇)、ニュース・ストーリー(七八)をあげ、ついで漫画(二二)小説(一八)以下対談、時事評となっている。

では、このダイジェスト的頭脳を作るために、彼女らは書物をどんな読み方をするのだろうか。彼女らは本を手にする時、ゆっくり読む(一〇四)けれども、系統的に本をえらぶ(三〇)ようなことは余りしないで乱読(七〇)する。

中には最初と最後だけをキセル式に読むものもある。お菓子を食べつつ読むもの(二〇)あるいは髪をかきながら読むもの(二六)ひじをつきながら読むもの(一六)神経質につめをかみながら読むもの(八)あるものは貧乏ゆすりをして読書する。その場所は書斎(八四)茶の間(六四)床の中(六〇)電車の中(二六)で、読書環境も選ばずに知識を吸収しようとする。だが一ヵ月の書籍費の平均は、女子大生では五百四十円、女高生では百五十円だから、借りて読む方(二〇〇)が多く、昔のように書物を買っておくという余裕はなくなって、買ったものはむさぼり読むわけだ。

タイの結婚式風景

"聖なる水"をそそぐ 祝福される若き二人

深みゆく秋は同時に結婚シーズンの最盛期でもある。というわけで少し趣きをかえて、東洋の仏教国タイの結婚風俗を取上げてみよう。といってもこれはアメリカに於いたタイの青年男女の一組、ちょっぴりアメリカ式を取入れ大体は故国の習慣に従ったという珍しいもの。新郎はワシントン駐在ポテ・サラシン・タイ国大使の令息パバン・サラシン君、新婦はバニャルシュン家で、シュムパラ殿下の御曹司パス・ジャリサン・シュムパラ医学博士。この式は各国大使に交って井口駐米大使の顔もみえた。

○…結婚式は米・タイ折衷。式場は花にみたされ、伯父の腕にみちびかれて階段を下りてきた新婦は肩抜きのピンクのブラウス、同じく長いスカートもピンクで銀糸のしゅうがしてあり、銀のサンダルというでたち。

○…さて式場の新郎新婦は仏壇の前でみどりの絹のクッションにひざまずき、ひたいに"神聖のしるし"の三つぼっちを白いナンコウでつけられ、いく世をも同く結びつくちぎりのしるしに、頭と頭は白いコードで結びつけられる。やがて大使は手製の銀の茶つぼをとりあげて新郎新婦の手コップに"聖なる水"をそそぎかけると、つづいて親しい友だちも同じように聖水をそそいでゆく。

○…式後、大使は欧米の例にならってシャンペン乾杯に導かれた新郎新婦は豪華なウェディング・ケーキにナイフを入れれば、それからタイ式デザートにはなくてならぬ"金の糸"(卵の黄味をクリーム状にしたもの)サク・サイ・ム(ごま切れのタピオカ)お茶が出ておめでたの宴が始まった。

○…なおこの新郎新婦はフィラデルフィアに住み、新郎は土地の養老病院に勤務しつづけることになっている。(USIS)

式が終ってプレゼントに喜ぶ新婦

頭と頭を白いコードで結ばれた二人に顧維鈞中国大使が祝福の"聖水"をそそぐ

ウェディング・ケーキにナイフを入れるご両人、中央手前がサク・サイ・ム㊧が"金の糸"

結婚誓書に署名する新婦(後方左から四人目井口大使)

ひたいに三つの"神聖のシルシ"をつけた二人のために乾杯

モダン猟人記

永遠の彼岸へ

大正十年十一月五日、千葉の津田沼海岸に男女の抱き合った心中屍体が漂着した。身許が判らなかったが、これはかねて家出をしていた青年哲学者野村隈畔とその弟子であり愛人である岡村梅子の変り果てた姿なのである。

隈畔は当時ジャーナリズムで健筆を揮っていた民間学者で、彼の思想はベルグソンのエラン・ヴィタルの理論の影響を受けたものだった。しかもそれに東洋的な要素があり、『永遠の彼岸』という代表作もあったが、ある講習会の聴講生としての梅子を知るとともに熱烈な恋愛におちいり、二人は手に手を取って市川にかくれ、その宿屋に数日を送り、ついに死を決して国府台から下の江戸川に身を投げたのである。

二人がどんな事情で死を急いだのか詳しいことは判らないが、一種の厭世感が恋の燃焼にともなって生死を混乱させたのだろう。死なねければならぬほどの理由はなかったとしか思えないが、冷たい人生の傍観者であるよりも、詩人であった彼にふさわしい行動だったといえないこともない。大正期までの哲学青年の感傷の現われらしい。(鮭)

=◇新刊紹介◇=

◇青春監獄(宮崎清隆) 青春監獄とはまだ日本に軍隊があったころ青年たちが一度に投込まれて青春を圧殺されかかった、三十代以上の男性にとって忘れることのできない宿命の苦難地獄のことであるが、この"監獄"で紅顔の新兵たちがどのようにして日夜難苦に責めさいなまれたか、著者の体験的物語りが綴られている。やがて主人公の新兵は悪虐非道の上官を斬殺するが、著者はかつて『憲兵』を発表して注目を集めた旧軍隊暴露ものの名手とあるから興味を呼ぼう。(B6二三〇頁、二〇〇円、東京ライフ社)

あすの運勢 高島象山

=十一月五日=

▲一月生―物事人気もあり信用もあり稼業は順調也開業移転結婚吉
▲二月生―何事も急がず焦まず努力すれば次第と向上する旅行よし
▲三月生―万事不如意にして不結果を生じ損失災害あり社交は注意
▲四月生―物事躊躇せず英断的に活動して効あり上位先輩の引立有
▲五月生―感情を捨て冷静に周囲情勢にさからう事なく進み進展す
▲六月生―思いもよらぬ古疵に災いされたり不和迷惑のあり易い日
▲七月生―進退を明かに目標を定めて努力すれば有利に進展する也
▲八月生―数日辛抱の甲斐あって漸く好調に赴き安楽に利達有なり
▲九月生―内外多事多難なり他動的世話事は迷惑あり新事は損あり
▲十月生―安寧秩序を正し旧態を堅く守りて無事気迷うは失敗あり
▲十一月生―大風一過好調に向う稼業栄達し商売繁昌し社交有利也
▲十二月生―低調にして人気添わず進めば損あり自重家庭に不和有

世界流言譚 ……(スペイン)……

酒がなにより好物な医者のアルフォンソがいつものように行きつけの酒場でウィスキーの一びんをカラにしていると、フェルナンデス夫人が急病だから至急診察しに行くようにと家から電話がかかってきました。千鳥足でフェルナンデス家に着き患者の部屋に通されましたが、なにしろ相当にきこしめしていることとてぐったりとベッドに横たわっている夫人の顔色もよく判りません。さて手首を握って脈をとろうとすると、夫と間違えた夫人が『もっと、もっと強く握って、もっと…』と悩ましそうな声を立てるではありませんか。いくら酔っているとはいえ、そそられるような鼻声につい熱くなって、キュッと口づけをしてしまったのです。間もなくワシは医者であったと気がついたアルフォンソ、照れかくしに『これァすっかり酔っぱらってる、さあ商売商売』と独り言をいうと、彼の熱い口づけに情熱的な反応をしきりに示していたフェルナンデス夫人、パッと目を開いて『いいえ先生、大変結構な治療でしたわ』

東海毒婦伝 青とかげ (119)

野沢純 土端一美画

江戸の八巻(十二)

しぐれの半次と、ちょろけんの与次郎、ともどもに、ふところ手のやぞうをきめ込んで、やがて繰り出す吉原田圃。

土手八丁を通り過ぎて、衣紋つくろう衣紋坂。大門の見返り柳をくぐれば、俄かに変る吉原五町の賑わしさだ。

ぼんぼりには、すでにもう灯がともって、夜の世界となっている。

ぞめきの客も、ここかしこ。格子の中から、キセルの先の雁首で、袖がらみをして、客を引き込む女郎もいれば、

『ええ、いかがさま。上タマがおりやす。多分の御散財はかけやせん。ほんの一っ刻、ちょいの間を、ぬれてしっぽりいかがさま』

もみ手をしいしい、寄って来る妓夫太郎もいる。

『こんなところで、あんまり使うのはバカのすることだぜ』

与次郎に小声でふくめて、しぐれの半次が選んだ店は、中店どころ。

『〆めて五両だ。それでよけりゃァ遊んでいこう』

毎度とみえて、かけあいも、半次の方が慣れている。

『ありがとうござい。ええお二人さま、おあがりだよう!』

と妓夫太郎が声を張りあげる。

あがればヤリテが待っていて、あいかたをきめてそれぞれ別間に通してしまう。パタリパタリと厚草履。あとはてんでの、甘い一夜が更けるまで。

ひけすぎの木を聞いて、まどろむ頃は、金龍山の鐘の音と、吉原田圃のカラスの声で夜があける。

『どうだえ、ゆうべのあいかたは?』

朝の楊子を使いながら、うすら笑いで半次がいえば、

『おい、それどころじゃァねえ。ゆすら夜盗の一味が、ゆうべ廓でつかまったというぜ。俺たちもあぶねえぜ。足許のあかるいうちに、ずらかるとしよう。岡ッ引と吉原は、切っても切れねえ縁だからなァ』

こうなると、すねに疵もつ与次郎の方があわてている。

(江戸をしばらく、草鞋を履こう)

といい出したのは半次でいながら、今朝になると、却って与次郎から急にその気になってきた。

半次とて、異存のあろうわけはない。

『すぐ旅仕度をしようじゃァねえか』

『うん。仕度はそっくり伊勢屋の蔵に寝ていらァな』

『行きつけの、質屋の店でころもがえ——たァ洒落てるなァ。ははっ……こういう時は都合がいいや』

与次郎、もともと放浪性が多分にあるから、江戸に未練はさらさらない。

それに半次も二人とも、料理屋の倅だから、庖丁くらいは器用に使える。

どこの板場へとび込んでも、庖丁一本でどうやら渡っていける腕前だけは持っているが、さて、あいにくと持ち合せていないのが堅気根性。それ故に、何処へ行っても尻が落つかない。但し、遊びにかけては、人後におちないというしろものなのだ。

その二人が、気を揃えての旅道中。

東海道を、小田原の宿場にかかって、旅籠をとるより女郎屋の方が一挙両得——とばかり、宿場女郎を抱いた翌朝。旅仕度をして、

『与っちゃん、そろく出かけようぜ』

しぐれの半次を促すと、与次郎はまだ、丹前姿のまま、チラと片目をつぶってみせて、

『お前一と足、先に立ちねえ。三島の宿で落ち合おうぜ。なぜといって、昨夜の女が、どうでも俺を離さねえのだ。よって、もう一晩だけ泊って行かァ』

『この野郎、いけしゃァくとぬかしゃァがる——』

タイの結婚式風景

"聖なる水"をそそぐ
祝福される若き二人

深みゆく秋は同時に結婚シーズンの最盛期でもある。というわけで少し趣きをかえ、東洋の仏教国タイの結婚風俗を取上げてみよう。といってこれはアメリカに咲いたタイの青年男女の一組、ちょっぴりアメリカ式を取入れてはいるが大体故国の習慣に基づいたという珍しいもの。新婦はワシントン駐在ポテ・サラシン・タイ国大使の姪スパパン・パニャルシュン嬢で、新郎はシュムパラ殿下の御曹司パスシャリサン・シュムパラ医学博士。この式には各国大使に交って井口駐米大使の顔もみえた。

○…結婚式は米・タイ折衷。式場は花にみたされ、伯父の腕にみちびかれて階段を下りてきた新婦は肩抜きのピンクのブラウス、同じく長いスカートもピンクで銀色のしゅうがしてあり、銀のサンダルといういでたち。

○…さて式場の新郎新婦は仏壇の前でみどりの絹のクッションにひざまずき、ひたいに"神聖のしるし"の三つぼっちを白のナンコウでつけられ、いく世をも固く結びつくちぎりのしるしに、頭と頭は白いコードで結びつけられる。やがて大使は手製の銀の盃をとりあげて新郎新婦のチョコッとに"聖なる水"をそそぎかけると、つづいて親しい友だちも同じように聖水をそそいでゆく。

○…式後、大使は欧米の例にならってシャンペン乾杯。客席に導かれた新郎新婦は三段の豪華なウェディング・ケーキにナイフを入れれば、それからタイ式デザートにはなくてはならぬ"金の糸"(卵の黄味と砂糖をクリーム状にしたもの)やサク・サイ・ム(こま切れポークのタピオカ)お茶が出て、おめでたの宴が始まった。

○…なおこの新郎新婦はフィラデルフィアに住み、新郎は土地の総合病院に勤務しつづけることになっている。(USIS)

式が終ってプレゼントに喜ぶ新婦

頭と頭を白いコードで結ばれた二人に最高級中国大使が祝福の"聖水"をそそぐ

ウェディング・ケーキにナイフを入れる二両人、中央手前がサク・サイ・ムの"金の糸"

結婚証書に署名する新郎(後方左から四人目井口大使)

十代のよみもの
女子大・高校生にきく

兼好法師は徒然草で『ひとりともしびのもとにふみをひろげて、見ぬ世の人を友とするこそ、こよのう慰むわざなれ』といったが、秋の夜長のこの読書シーズンに、十代の娘らは、どんな本を心のかてとして読むのだろうか。社会診断グループは、これを知るため、女子大生、女高生ら三百名に、彼女らのよみものをたずねてみた。

求める"人生"の書
『借りて読む』が圧倒的

書店の店先は、新書ブームがわかもの顔だが、この二百冊余の新書の中で、彼女らに最も読まれているものが、『はだか随筆』(六〇)『うらなり抄』(十二)『うちの宿六』(十二)『しいのみ学園』(一〇)というぐあいである。もっとも『はだか随筆』は随筆ブームの皮切りで、他の新書より抜きでたベストセラーなのだが、下半身を語る先生の失言?は、教授の肩書によるヴェールで読ませたものであろう。これに対し、作り出したベストセラー、『欲望』『裁判官』『新聞社』などは案外読まれていない。十代娘は、新書ブームの流行には無関心のようだ。

新刊では『二十四の瞳』『女中っ子』『むらぎも』『霧の中の少女』『女は自由である』などを読む半面、歴史は常に繰返すように『友情』『真実一路』『波』とか、ジイドの『狭き門』『女の学校』などが相変らず読まれている。また女子大生だけをみると、『結婚について』『恋愛について』などが多く読まれ、将来の結婚を夢み恋愛をあこがれる女性の心がのぞかれるようだ。

また現代は人生論の時代であるともいわれるが、この観点から読書をみると、『私の人生観』『人生遍路』『若き日のために』『若き女性のために』などの書物が読まれ、『青春の生き方』『若き日の生き方』『新しい女性の生き方』『貴子の生き方』『千恵子の生き方』等によって人生の指導標を求めており、悩み多き青春を物語っている。

半数が容姿もの
ばかにならぬ週刊誌

次に彼女らの読む雑誌に調査のまなこを転じてみよう。多数の娘に読まれるものは、『文芸春秋』(五〇)『婦人公論』(三四)の総合雑誌と週刊誌を全体の三分の二のものが愛読する。

ついで『新女苑』(二四)『芸術新潮』(一二)であるが、半数が容姿への関心を示して『スタイル・ブック』『若い女性』『装苑』の服飾雑誌を、娯楽としては『映画ストーリー』『スターストーリー』や『音楽の友』など。女子大生は生活設計の関心を持つのか、『暮しの手帖』を五分の一の者が読み、女高生は生活環境の縮図のように『蛍雪時代』(三四)『高校時代』(一七)とか『高校コース』を、また『平凡』(三四)と『リーダース・ダイジェスト』(三〇)を読むが、『平凡』は思ったほど読まれていない。

さらに雑誌では、実に多くの週刊誌が読まれているが、これもダイジェスト文化の現われであろう。廉価ということも一つの理由だが、その内容がアップ・ツウ・デートということも見逃すことはできない。

最初と終り読む
キセル読み

いまこの根拠として、彼女らが週刊誌の最も興味を引くところを問うと、トップ記事(一〇〇)、ニュース・ストーリー(七八)をあげ、ついで漫画(三二)小説(一八)以下対談、時事評となっている。

では、このダイジェスト的頭脳を作るために、彼女らは書物をどんな読み方をするのだろうか。彼女らは本を手にする時、ゆっくり読む(一〇四)けれども、系統的に本をえらぶ(三〇)ようなことは余りしないで乱読(七〇)する。中には最初と最後だけをキセル式に読むものもある。お菓子を食べつつ読むもの(二〇)あるいは読書環境も選ばずに知識を吸収しようとする。だが一ヵ月の書籍費の平均は、女子大生では五百四十円、女高生では百五十円だから、借りて読む方(一〇〇)が多く、昔のように書物を買っておくという余裕はなくなって、買ったものはむさぼり読むわけだ。

モダン歳人記
永遠の彼岸へ

大正十年十一月五日、千葉の津田沼海岸に男女の抱き合った心中死体が漂着した。身許が判らなかったが、これはかねて家出をしていた青年哲学者野村隈畔とその弟子であり愛人である岡村梅子の姿の果てた姿なのである。

隈畔は当時ジャーナリズムで健筆を揮っていた民間学者で、彼の思想はベルグソンのエラン・ヴィタルの理論の影響を受けたものだった。しかもそれに東洋的な要素があり、『永遠の彼岸』という代表作もあったが、ある講習会の聴講生としての梅子を知るとともに熱烈な恋愛におちいり、二人は手に手を取って市川にかくれ、その宿屋に数日を送り、ついに死を決して国府台から下の江戸川に身を投げたのである。

二人がどんな事情で死を急いだのか詳しいことは判らないが、一種の厭世感が恋の燃焼にともなって生死を混乱させたのだろう。死ななければならぬほどの理由はなかったとしか思えないが、冷たい人生の傍観者であるよりも、詩人であった彼にふさわしい行動だったといえないこともない。大正期までの哲学青年の悲劇の現れらしい。(健)

誕生月の運勢
十一月五日

夢と髷
江戸の八巷 (十二)
(119)
野沢純　作
土端一美　画

しぐれの半次と、ちょろけんの与次郎、ともどもに、ふところ手のやぞうをきめ込んで、やがて縁の出す吉原田圃。

土手八丁を通り過ぎて、衣紋つくろう衣紋坂。大門の見返り柳をくぐれば、俄かに誇る吉原五町の賑わしさだ。

ほんぼりには、すでにもう灯がともって、夜の世界となっている。

ぞめきの客も、ごったがえし。格子の中から、キセルの先の雁首で、袖から袂をして、客を引き込む女郎もいれば、

『ええ、いかがさま。上ダマがおります。多分の御散財はかけやせん。ほんの一っ刻、ちょいの間を、ぬれてしっぽりいかがさま』

吉原は、切っても切れぬ縁だからなア』

こうなると、すねに疵もつ与次郎の方があわてている。

(江戸をしばらく、草鞋を履こう)

といい出したのは半次でいながら、今朝になると、却って与次郎から急にその気になってきた。

半次とて、異存のあろうわけはない。

『すぐ旅仕度をしようじゃァねえか』

『うん、仕度はそっくり伊勢屋の蔵に預けてあらァな』

『行きつけの、質屋の店でこうもかえ――だァ洒落てるなァ。ははっ……こういう時は都合がいいや』

与次郎、もともと放浪性が多分

(第3269号)　(第三種郵便物認可)

写真は銀座のS書店

質屋夫婦を殺傷 中野鷺ノ宮

鈍器でメッタ打ち 妻女は即死 主人ひん死

土足で物色のあと 現金、貴金属が紛失

四日午前七時三十五分ごろ中野区鷺ノ宮三の一七八質商『辰巳屋』方母屋八畳間に寝ていた主人の酒井徳重さん(六〇)の妻喜代子さん(五二)が鈍器様のもので頭、顔などをメッタ打ちにされて血まみれになって死んでおり、その隣りに酒井さんが同様メッタ打ちにされ虫の息になっているのを、主人夫婦を起しにいった同店の土蔵二階に住んでいる番頭の水野忠さん(二五)が発見、野方署鷺ノ宮五丁目交番に届出た。警視庁から安達捜一、国島鑑識両課長ら係官が現場に急行、検視したところ酒井さん夫婦は熟睡中をいきなりメッタ打ちにされたものらしく、苦もんの跡はみられるが抵抗の跡はほとんどなく、現場にはどろのついた足跡が残され、夫婦の寝ていたまくら元にあるはずの現金や、貴金属を入れた鋼鉄製ロッカーが隣りの六畳間に上部を金テコ様のものでこじ開けられ空になっているなどの点から計画的な強盗殺人事件と断定、野方署に捜査本部を設け本格的捜査に乗り出した。【写真は質屋夫婦殺傷事件現場と円内は主人酒井さん】

犯行は朝四時ごろ 変り者の主人

調べによると犯人は酒井さん方の裏木戸をこじ開け裏手の便所の窓から侵入、凶行後は勝手口から逃走したものとみられるが、賊の人数、被害品目、金額はいまのところ判っていない。現場は西武新宿線鷺ノ宮駅から北に約一キロ駅前通り商店街のバス通りの外れにあるが、夜になっても人通りはあり、割合い賑やかな所で昨夜は夫婦揃って映画『人生とんぼ返り』を観て十一時半ごろ帰宅、夜遅く寝ており、凶行推定時刻は筋肉の死後硬直、血液の凝固状態などから四日午前四時前後とみられる。

殺された喜代子さんは去る二十八年春ごろ同区野方結婚相談所の紹介で現住所に質屋をしていた酒井さんに後妻にきたもので当時酒井さんは池袋方面の某薬局の長女笑美子さん（年令不詳）と折り合わず離婚していた。

喜代子さんとの夫婦仲はあまりよくなく、"酒井さんは近所でも『変った人』という評判があり、近所づきあいは主に喜代子さんがしていた。最近よく夫婦喧嘩をしているのを表のそば屋の店員が聞いており、子供はなかったが去月中旬ごろには酒井さんが野球のバットで喜代子さんを殴り、喜代子さんの叔父同区宮前町一八西村鉄次さんが仲に入ったこともあった。

なお同家は主人夫婦と水野さんの三人暮しで、番頭の水野さんは妻喜代子さんの遠縁に当る、さる二十八年はじめ実家の愛媛県大洲市から上京、品川区にある日本音楽学校に入学、ヴァイオリンを習っていたが、同年七月から同店に住込んだもの。

血の海にびっくり

番頭水野忠さん談　『いつも七時には起きている母屋に電灯が点きっぱなしになっているので不審に思い、起しに行ってみると一面に血の海なのであわてて届出た』

日暮里でも夫婦負傷 さわいで凶器で殴らる

四日午前零時半ごろ荒川区日暮里九の一〇三五会社員田中茂さん(二四)方に二十四、五才五尺二寸ぐらい黒いメガネをかけた黒服の男が侵入、同家二階に寝ていた田中さん夫婦を起し、驚いて騒ぎたてた妻の朝子さん(二四)の頭をいきなり真鍮のパイプで殴りつけさらに茂さんの頭もパイプで殴り二人にそれぞれ全治十日間の傷を負わせて一物も盗らず逃走したと荒川署に届出た。同署で捜査中。

殺人か、頭に致命傷 板橋 酔っ払い店員が変死

四日午前二時十五分ごろ板橋区板橋九の一六一三川越街道『宝来湯』前路上に茶のジャンパー、作業ズボンの三十三、四才の男が頭に裂傷を負いあお向けに倒れているのを同区板橋五の一〇二八夜泣きそば屋佐藤幸男さん(三〇)が発見、日大病院に収容したが同九時すぎ死亡した。板橋署の調べでは、男は同区板橋四の一〇八六『金寿司』金沢朗洸さん方店員山本孝夫こと朝鮮人崔用吉さん(二四)とわかった。崔さんは前夜『金寿司』前の飲屋で焼酎四合を飲み、もっと飲むといって出たままだったもので、鈍器様のもので打たれた頭の傷が致命傷だが、殺人事件らしく調べ中。

車代を踏み倒す マンボ・スタイルの男

四日午前四時ごろ、練馬区南町二の五六八〇、稲交通会社運転手古田島由方さん(三三)は新宿三丁目から乗せた二十三、四才五尺七寸細面のマンボスタイルの男に練馬区豊玉仲町二の九先でストップを命ぜられ大型ナイフを突きつけられ『金を出せ』と脅かされたが、古田島さんが騒いだため右親指に十日間の傷を負わせ料金六百円を踏倒し逃げたと練馬署に届出た。

地元、阻止態勢を強化 砂川 測量隊いったん引上げ

【砂川発】"祝日休戦"に明けた東京都下砂川町は緊迫の空気をみなぎらせて測量第三日目を迎えた。一、二の両日地元側の巧妙な"引伸し戦術"で測量不能を余儀なくされた東京調達局は、四日も川崎不動産部企画課長以下の測量隊二十八名を編成（内立会人都外務室参事山田良太郎氏ら三名）午前九時河崎東京調達局長の指令により十時四十五分三番ゲートに到着したが、国鉄を先頭とする約八百名の地元民と対立、押し問答の末測量隊は交渉わずか七分で十時五十二分いったん引上げた。一方地元側は四日を闘争のヤマとみて阻止態勢を強化『杭を一本も打たせない』との決意を表明、支援労組は約五百名を前夜から泊りこませ、四日朝には総評さん下の約二千五百名の労組員が砂川町に繰込み測量反対の気勢をあげた。

警官の出動を要請 阻止すれば午後から

▽河崎東京調達局長談　午前十時に二日と同様に測量に出かけるよう現地の測量班に指令した。午前中は警官の応援を頼まずに行かせるが、どうしても測量が行えないようなら、午後には警官の出動を要請するつもりだ。しかし実際出動するかしないかは警察当局の判断による。

宮坂の妻女が証言 正美ちゃん誘拐事件公判

トニー谷の愛児誘かい事件第二回公判は四日午前十時半から東京地裁刑事二十四号法廷で八島裁判長、正木（亮）弁護人立会で開かれ、犯人宮坂の妻梅子さんの証人調べが行われた。証言次のとおり。

主人（宮坂）は師範の友人の子供だから一週間ぐらい預ってくれといって正美ちゃんを連れてきた。正美ちゃんは最初から子供たちと一緒に遊び、少しもおびえているような様子もなく、私のことを"キミ""オイ"と呼び主人のことを"オイ"とか"オジチャン"と呼んでいた。主人が新聞を見せなかったので正美ちゃん誘拐事件などは全然知らなかった。事件後、トニーさんから感謝の手紙と子供にオモチャなどと一緒に奥さんから現金一万円を送ってもらった。

なおトニー谷さんの証人調べは二十一日。

砂田長官浜松基地視察

砂田防衛庁長官は四日航空自衛隊浜松基地を視察した。同長官はこの日午前十時二十分拡張問題をめぐり紛糾を続ける米空軍立川基地から航空自衛隊のC四十六輸送機で出発、午後四時すぎ立川着、空路帰京した。

ミナト・ヨコハマ Yライン ⑩ 大丸谷

文 北林透馬　え 森比呂志

天国と地獄が雑居 今は昔、『谷の女王』など

ヨコハマの山手は、昔は外人居留地だったから、異人さんの学校もあれば教会もある。病院もあればお墓まであるのに不思議はないが、そのカトリックの教会とミッション・スクールのすぐ下に『大丸谷』があるのは、ちょっと皮肉でないこともないだろう。

天国と地獄――。もっとも、われわれ不遇なる男性にとっては、教会とお女郎屋と、どっちが地獄で、どっちが天国かはモンダイですがね。

こういっても、近ごろはご存じない向きもあるかも知れないが、大丸谷（おうまるだに）といやァ、本牧とならんで昔から有名な異人さん相手の赤線地区だ。

むかし此処のサイ・ホテルにお玉ちゃんという気っぷの好いのがいましてね。クィーン・オブ・ザ・ヴァレイ『谷の女王』なんていわれて鳴らしたもんだったが、これが丘の上のミッション・スクールの生徒だったことがあるんだから、天国からおりてきた天使だと自分ではいっていた。そのくせ股に大きな蜘蛛のホリモノをして、酔払うといきなりキモノの裾をまくりあげて、こいつを見せるクセがあったんだから、たいした天使である。

そのサイ・ホテルはなくなった。一番テッペンのアルメニア人のやっていたチボリ・ホテル、上海お蘭のいたキミ・ホテル、と古いホテルはみんな代が変っているし、屋根の上にナンバ・ナインのネオンをあげていたジャパン・ホテルも今はバンガロウと名が変った。

バンガロウといえば、元町にあったキャバレーで、チャイナ・タウンのインター・ナショナルと共にハマのバー・ガール達の二大アカデミーだった。つまりインターかバンガロウか、このどちらかの出身者でないと、ハマでは一流のバー・ガールとは認められなかったという不文律があったわけである。

前に書いた南京町のエデルワイス酒場をやっていたキスリンズ麗子もバンガロウの出身で、酒場をやめてから大丸谷でホテルを始めた。ホワイ・ハウスとかいう名前だったと思うが、それも戦争前にやめたらしく、終戦直後は進駐軍で通訳をやったり、食堂のウェイトレスの取締りをやったりしていたが、今は知らない。

やっぱり、もとバンガロウにいたツルさんが、エデルワイスの後を引きついで酒場をやっていたが、これも転向して、今大丸谷でツルヤ・ホテルというのをやっている。エデルワイス時代、可憐な美少女だったトシちゃんが、すっかりふとってツルヤ・ホテルのマダム代理をやっているが、まことに貫録十分の堂々たるものである。

そこで、昔からの古い家は一番奥の日光ホテルだけになってしまったが、これも昔はコドモだった混血娘のヘレンが、今は堂々たるレディになって、おふくろさんの代りにマダムぶりを発揮している。庭にフン水などを作りましてね。もっともあまり水の出てるのは見たことないが、まあ朝鮮事変ブームで相当にアテたらしい。

この大丸谷の坂の入り口に、小さな地蔵さまだかお稲荷さまだかがあってご縁日には赤い旗がズラリと立ちならぶし、何かしらお供えものは始終あがっている。マンボ・スタイルのホテルの娘が神妙に拝んでいる姿などちょいとイケますよ。

エムさん 石川進介 334

ジャングル生活十年 元日本兵捕わる 比島

【マニラ三日発UP＝共同】三日のフィリピン新聞報道によると戦後十年間フィリピンのルソン島東南部ソルソゴン州バコン付近のジャングルにひそんでいた元日本海軍兵曹一名が逮捕された。ソルソゴン憲兵隊の調べによるとこの元日本海軍々人は木下ノボルさんといい、和歌山出身、両親の名は木下コマ十郎、同ユネさんであることが判った。

三鷹の火事

四日午前零時五十五分ごろ三鷹市新町七九二ブリキ製品製造業村越慶作さん方から出火、同家木造平屋住宅一むね二世帯四十四坪を全焼して同一時二十分ごろ鎮火した。三鷹署で原因調査中。

秩父宮妃が励ましの言葉 港区で母子福祉大会開かれる

未亡人の家庭を明るくするための集い『母子福祉第四回大会』は四日午前十時から港区公会堂で開かれた。この日会場には全国からの未亡人約六百名が集り、愛児を抱えての苦闘をそれぞれ披露し、国家でもっと積極的に援助してほしいとのべた。なおこの日秩父宮妃殿下も出席され『みなさんの子供さんが苦境にもまけず、育ってゆくよう祈ります……』との激励のお言葉に一同は感銘深くきき入っていた。同大会は明五日も港区公会堂と日赤本社にわかれて開かれる。【写真はその大会】

早慶戦開門は九時

六大学野球リーグ戦のとりを飾る早慶戦は五、六両日午後一時から神宮球場で行われるが、両日とも開門は午前九時、当日売切符は内野券三百五十、外野一万である。

迷路ガイド　解答 志村巽

舌などに赤いツブ 愛人を性病の感染源と疑う学生

問　二十才になる学生です。五ヵ月ほど前、ある女性と知り合い、いままで交際してきました。ところが、最近になって舌に赤い粒のようなものが無数に発生していることに気がつき、また局部にも同じような粒が少しできております。また体全体にも痒みを感じ、普通の腫物とも思われず、今になって性病ではないかという恐れに不安の日を過しています。私はかつて一度もいかがわしい娼婦に接したことはありませんので、彼女以外に感染源を考えることはできません。友人の話を聞くたびに私は生きる望みも消え失せそうになります。今日の医学で完全に治りますものでしょうか。お答え下さい。（中野区昭和通・Y生）

答　一口にいうならば、性病を疑うに足る何らの根拠もないのに、くよくよと心配するあなたの心理はおかしいと思います。最近特に多い性病の恐怖に基因するノイローゼであることは"生きる希望がない"などのお手紙によく現れています。陰部や体全体にできているものは、診察しないとはっきり判りませんが、痒みがあるということからみますと、性病には全く関係がないものと思われます。何かほかの皮膚病でしょうから、速かに皮膚科専門医の診断を乞うことです。自己の性病を疑うと同時に、相手の女性をも疑うことになるのですから、こんなわだかまりがお互の不幸の元ともなるわけです。一刻も早く解消することですね。（十仁病院泌尿器科長）

【中山 六日目】

五次中山もいよいよ終盤戦に入って、あすはアラブ三才の優勝レースが行われる。

△アラブ三才優勝（第八ー千百米）フジミナトは前回の優勝戦でワンライトの三着に敗れたが、今度は三日目ニューフアースト以下に楽勝しており、ここでは勝てよう。勝時計では初日のミスヒカル、二日目のカンダオーもフジミナトと同じだが、フジミナトが勝った三日目はやや重の馬場だったので、この点でも優位が認められる。カンダオーは二日目初めてのレースだったのにタエヒメ以下を問題にしなかったが、二度目の今度はもっと走ると見なければならず、同馬は将来の大物とも見られるだけに或いはここでフジミナトを打倒しないとも限らない。前回の優勝馬ワンライトは初日三着だったが、多少早目に足を使いすぎた嫌いがありここでは穴馬。フジミナト、カンダオー、ミスヒカルの順、穴ワンライト。

△サラ勝入ハンデ（第十ー千八百米）キンコウは五日目ミスコーテルを鮮やかに破ったが、ハンデの53キロも不利でなく57キロのストロングより強みがありそうだ。ヤマトヒカリはこのところ不振だが、四東の七日目千八百米一分五十一秒三の勝時計があり、キンコウの強敵としてうるさい。キンコウ、ヤマトヒカリ、ストロングの順、穴ナスノツキ。

△一般レース予想　❶アロハ、ケーエス、クロシオの順❷ヴィーノモア、クダンホマレ、カンダバシの順❸ピュアー、トキワイオーの順、穴ヘクウン❹ヒデノチカラ、トヨシロ、アポリ、パトリシアの順、穴ハルミツ❺トウセイ、ベル、ショウエンの順❻ヤマノマツ、ミストウスイ、クインスワローの順、穴アルビオン❼ダイナナホウシュウ、ブレツシングサクタカの順❽トヨクモ、オアシス、クリトモエの順、穴スピアム❾ーン⓫ラカローダ、フクカゼ、ミスアカネの順、穴ヨコアミ。（松本）

【花月園】十一月の花月園競輪は五日から八日までの四日間行われる。今回の見ものは九月の日本選手権に出場した強豪で、A級は一番目したいのが新鋭横溝誠で、最近その差脚がますます冴えをみせてきたので鈴木剣、久保田徳雄、吉野英彦、高橋昭、高原、勝浦武、梁瀬ら強敵相手に目覚しい戦いを演じるだろう。◇B級＝梶本かんなレースで接戦は必至。（座間京一）

独眼灯

○…ことしは豊作だがヤミ米の値段の下りっぷりは案外悪く、日本一の米どころ新潟では全然値動きがないかと思えば十月の長雨のため逆に値上りした北海道など主婦連をはらはらさせているが…。○…十一月に入ってからは漸く京浜、中京、阪神、北九州などの消費地でも漸落の傾向をみせ、産地でもヤミ米の値下りで配給辞退が続出。秋田では五割の高率を示したサラリーマンの腰弁が復活、特産の晩メシの売行きはガタ落ちでは規格外米を買い漁ってのドブロク密造が横行するしていたらく。○…かと思えば手持米を売らずき安くなったヤミ米を買い戻して飯米を確保した農家もあらわれ（静岡）関東の米どころ水戸では市内の某大衆食堂が『豊作につき全品目十円の値下げ』とはり紙（写真）をかかげて市民を喜ばせている。

デポ・コント 似而非

何しろ日本語という奴は、害にも薬にもならぬ妙ちきりんな厄介きわまる代物で、殊に漢字にはそれぞれきまった読み方があるのに、その字を組み合すと、とんでもない読み方になってしまうのがあります。

そしては、みんな難かしい字を知っているのを自慢にし、さもがくがあるように威張っている人もあるものです。

『君は、菜の葉の草って書いて何んて読むか知ってるかい？』『勿論さ、レンゲじゃないか、じゃタンポポは何んて書く？』『おや、逆襲か？　タンポポは蒲公英じゃなイカは？』『鳥の賊……』『間違い、カラスの賊だよ。よし俺の一点勝。じゃタコは？』『章魚。じゃあ国の名前でエジプトは？』『いわずと知れた埃に及ぶさ。じゃあスエーデンは？』『瑞典だよ。ニューヨークは？』『紐を育てる。サンフランシスコは？』『桑の港』……といった調子でなかなか難はつきません。

×

『じゃあ、似而非と書いて何と読むか？』これはちょっと難問ですが、しばらく考えた末『エセと読む』『ご名答。然らば如何なる意味なりや？』『書いて字の通り、似て而も非なるものなり』『例えば？』

『近ごろ君の愛用している『デポ男性』だ。本物はアメリカのアップジョン社の『デポ男性』であるのに、最近その評判を聞いて、日本の製薬会社でもデポの名前を使い始めた。君の使ってるのなんかもエセ『デポ男性』だよ。』

値段が安いからといって、似而非はやはり似而非。

そんな質問を出すのを『藪をつついて蛇』というわけさ。

×

痛いところをチクリで、結局、似而非氏の負けとは、理の当然の話